

白藍塾オリジナル

2025年度 入試小論文分析&解答のヒント

2025年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 早稲田・スポーツ科学部

今年度の課題は、「大学生は『子ども』なのか、それとも『大人』なのか」について自分の考えを述べることが求められている。

例年以上に変則的な問いで、スポーツや遊び、文化といったものとも直接関係のない内容となっている。これは、無理やりスポーツなどと結びつけて論じる必要もないだろう。

現在は18歳以上が成人とされているので、大学生なら法的には十分「大人」ではあるが、実際にはまだ社会に出ていないため、「子ども」扱いされることも多い。また、年齢的にも立場的にも「子ども」から「大人」への過渡期であり、両者の中間的な存在とも言える。したがって、当然ながら正解があるわけではなく、むしろ大学生をまだ「子ども」だとみなすか、もう「大人」だとみなすか、あるいはその中間的な存在とみなすかは、「大学生」のあり方の捉え方次第ということになる。

例えば、大学生のあり方について、社会の一員としての責任を強調するなら「大人」として、社会的には未熟だが可能性に満ちた存在とするなら「子ども」として捉える等、さまざまな捉え方ができるはずだ。

その意味では、大学生としてこれからの学生生活に臨む姿勢や向き合い方が問われているとも考えられる。

そうしたことを考えながら、自分なりの「大学生」のあり方を考えるとよい。

ちなみに、この問題は、単に「自分は大学生活をどう過ごしたいか」という個人的な心がまえが問われているわけではないが、「大学生というのはこういうものだ」という一般論を書くだけでも不十分。あくまでも「これからの大学生はこうあるべき」という自分なりの理念や姿勢を示す必要がある。

書き方としては、基本形の応用でまとめられる。最初に「大学生はまだ『子ども』だと考える」か「大学生はもう『大人』だと考える」などとズバリ答える。第2部で、「確かに～という考え方もある。しかし、～」と切り返し、第3部で、「子ども」「大人」というワードと関連づけながら、自分の考える大学生のあり方や学生生活への向き合い方をくわしく説明するとよいだろう。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>